

伊賀市立桃青^{とうせい}の丘幼稚園^{おか}だより

～多様な主体性を涵養する教育～

あさがお



朝晩の気温差も大きく、3学期初めて子どもたちの風邪症状が見られました。お家の人に学級の健康状況を伝えると園と一緒に子どもたちの健康管理をしてくださいました。細かく健康状態を見ていただき、子どもたちもうれしかったと思います。

幼児期は、ささいなことがうれしさや喜びにつながるものだと思います。例えば、日常生活の中では、登園前にお家の方が水筒にお茶を入れる、身支度を一緒に進める、忘れ物がないか声を掛ける、寒い日は上着を用意するなどのかわりがあります。何げない日常のようで、子どもにとってはそのささいなかわりがうれしさや喜びにつながります。また、一緒にしてもらえた、応援してもらった経験は子どもの自己肯定感の高まりにつながります。

家庭や園での小さな積み重ねは、子どもたちの成長の基礎になるものです。3学期も残りわずかですが一緒に頑張りましょう。

子どもの論理を大切にしながら、子どもの人格を確立する
～身近にいる大人が教育的配慮を大切に～

私たちは、子どもとかかわっていく中で、一人一人の育ちを捉えていきます。集団生活の中では、身近にいる人の姿を見て、自分もしてみたいという興味・関心・意欲が湧いてくる場面が多々あります。

この度、年長児が特別にんにんタイムに取り組み、その姿を見て年中児も挑戦してみました。「年長さんみたいな忍者もしてみたい。」と以前に修行ごっこをした経験を重ねて思いを伝えあいました。

私たちは、このような子どもたちの思いにふれながら教育環境を整え保育を進めています。

このように園教育では、子どもたちが周囲との関係を結んでいる過程を支えることを大切にしています。これは、園教育だけではなく各ご家庭でも大事にさせていただけると嬉しいです。

～子どもの心と身体は一体であることを基本にして環境を構成する～



物的・人的環境を整え、他者との関係性の中で育まれる主体性を発揮する
～思わずかかわりたくなる環境づくり～



物的・人的環境を整えるとはどのようなことでしょうか。

私たちは、子どもの仲間に入りながら今の遊びや活動の様子を把握していきます。

Aさんがオセロを始めました。B、C、Dさんなど仲間に加わります。その様子に寄り添っている教師は、遊びが展開していくのを見守ったり、Aさんには根気よく遊びに没頭してほしいという願いやねらいによって働きかけたり、環境を整えたりします。

私たちは、毎日の遊びの後に、明日の遊びがさらに展開していけるように教育環境を整えています。

～物的環境として～

- すぐに遊びが始められるように玩具を用意しておく
- 昨日の遊びの続きができるように制作コーナーを整えておく
- 劇ごっこができるようにさりげなく劇の道具類を設置しておく
- ドッジボールのラインを引いておく、ボールをコート付近に設置しておく
- 各年齢の遊びや季節にあった砂場用具を整えておく



～人的環境として～

- 年齢にあわせて、教師は遊びの仲間に入る
- 遊びの様子を見て、あえてそばで見守り、時にはねらいにあわせて働きかける
- 人間関係をつくっていく過程を支えながら思いを受け止めたり、相手の思いを知らせたりする

このように毎日の子どもの成長する過程を捉え、適切な働きかけができるように職員間でエピソード記録を検討したり、協議をしたりして幼児教育を深めるようにしています。



日常生活の中でさりげなく目の前にあるものは、当たり前ではなく、いろいろな人の思いやねらいがあって成り立っているものです。

全ては、子どもたちの育ちを支えるためです。ひと手間かかっても、子どもには大人の思いが届いています。『子ども第一』を忘れずに、これからもかかわりを続けていきたいです。